

薬学生が病院見学ツアー

府北部で地域医療を体感

京都府薬剤師会病院診療所薬剤師部会は、昨年11月中旬に薬学生を京都府北部5病院の見学に招く日帰りツアーを実施した。同ツアーの企画は初めてで、京都府の委託事業として地域医療介護総合確保基金を活用した。6大学19人の学生が現地に足を運び、その土地での生活や地域医療の雰囲気を感じた。北部の関係者は、薬剤師確保に向けて「地域の病院を知ってもらうきっかけになれば」と期待している。

京都府薬

時には病棟での薬剤師の業務を説明し、医師や看護師から薬剤師への期待を語ってもらった。同院薬剤部長の竹田和也氏は「有給取得状況や残業の実態、賞与額まで踏み込んで話した」と振り返る。

見学ツアーは11月12〜14日の3日間、京都府北部の舞鶴地区3病院（舞鶴赤十字病院、市立舞鶴市民病院、舞鶴共済病院）、京丹後市立久美浜病院、市立福知山市市民病院の3エリアを対象に実施し、京都薬科大学や大阪医科薬科大学、立

命館大学などに所属する19人の薬学生（5年生15人、4年生3人、1年生1人）が希望エリアを一つだけ選ぶ機会もあった。舞鶴地区では、急性期、慢性期、療養型の3病院見学で地域医療の全体像を俯瞰した。舞鶴共済病院見学

京丹後市立久美浜病院では、薬剤師の多職種連携を説明。同院薬剤師長の和田昭氏は「患者や医師との距離が近い地域特性と、チーム医療の中で薬剤師がどう頑張っているかを知ってほしい」と語る。京丹後市周辺地域の3病院の担当



舞鶴共済病院の施設内を見学する薬学生

るなど、工夫を凝らした。同院副薬剤部長の足垣亮介氏は「遠方出身の薬剤師職員に、就職した経緯や、この地域で住んで働くという

見学ツアー

者にも来てもらい、薬学生に各病院の魅力を伝える時間も設けた。市立福知山市市民病院では、薬剤師が外来化学療法室や病棟等で働く様子を見てもらったほか、現地での暮らしを具体的にイメージできるように市内各所を回

のイメージが変わったと回答した薬学生が大半を占めた。「想像していた以上に、他職種や地域との関わりが密だった」などの声もあった。京都府北部には、薬剤師数が定員に満たない病院が少なくない。長年薬剤師を募集していても応募がない病院や、やむなく企業から薬剤師の派遣を受ける病院、正職員の薬剤師が1人しかない病院も存在する。

見学対象になった3エリアの基幹病院でも薬剤師を十分に確保できていない。就職への導線となる実務実習受け入れに門戸を開いているが、都市部の病院とは異なり実習生が来ることは少ないという。こうした中、北部の関係者は見学ツアーの効果に期待している。参加した薬学生に今後のアクションを聞いたところ、北部の病院におけるインターンシップや就職説明会への参加、個別

病院見学、実務実習について前向きな反応があった。同ツアーを契機にこれら次のステップへとつなげていきたい。学生間の口コミによる波及効果も見込んでいる。京都府薬はこれまで、病院就活準備応援ウェブセミナーや、府内の約30病院が集まる就職説明会「病院ふれあいフェスタ」、府内各病院の集中見学会などを開き、病院と薬学生の接点づくりに努めてきた。このほか舞鶴市では、数年前から複数の病院と薬局が連携し地域一体となって薬学生の実務実習を受けるプログラムも動いている。今回が初となった1日見学ツアーも来年度以降、市内の地域を対象に、引き続き実施したい考えた。同部会人財確保WG長の黄前尚樹氏（洛和会学術支援センター）は「薬学教育では地域医療を学ぶ機会が乏しい」と意義を語る。